



## 活動 報告

### 「熊本県被災障がい者把握事業」を実施 ～支援の届かない被災者をつくらない取り組みの推進～

令和8年熊本地震の発生に伴い、基幹相談支援センターアクロスでは、被災された障がいのある方の孤立防止や生活状況の悪化を防ぐため、「熊本県被災障がい者把握事業」を集中的に実施いたしました。本事業は、避難生活や環境の変化によって状態の悪化が懸念される在宅の障がい者を対象に、個別訪問を通じて早期に現状を把握し、必要な支援機関へ確実につなぐことで「支援の届かない被災者をつくらない」ことを目的としています。



## 主な事業内容

- 在宅被災障がい者への個別訪問による現状把握
- 必要に応じた専門・関係支援機関へのつなぎ
- 訪問状況に基づく専門的な生活支援・助言の実施
- 状態悪化防止に向けた一体的な取り組みの推進

## 集中訪問と継続的なサポート

8月5日～9日の期間、熊本県障がい者相談支援事業連絡協議会（KSA）および日本相談支援専門員協会（NSK）と連携し、専門チームによる個別訪問を実施しました。訪問時は「被災者アセスメント調査票」を用いて丁寧な聞き取りとお声掛けを行い、トリアージで緊急度や支援の優先度を把握。ご不在の場合や緊急性の高いご家庭に対しては、委託相談支援機関と連携して迅速に2次訪問を行いました。

8月9日の集中訪問終了後も、委託相談員が引き続き訪問や生活支援を継続しています。今後も地域の関係機関と連携し、被災された皆様に寄り添った支援を進めてまいります。

## 制度の隙間に悩む フェーズに応じた支援

災害からの時期（フェーズ）が経過するにつれ、被災された方の悩みやニーズは「緊急の安全確保」から「仮住まいの確保や生活の再建」へと変化しています。現在（生活復旧期～生活再生期）のフェーズでは、住宅の確保や各種支援金の申請手続きが主な課題となりますが、現実には以下のような深刻な壁に直面されている方が少なくありません。

**住まいの問題：**仮設住宅は申込数が非常に多く、狭き門となっています。また民間賃貸を探そうにも、物件自体が被災していたり、条件に合う部屋が見つからなかったりする状況が続いています。

**制度の不該当・申請の壁：**各種支援金（被災者生活再建支援制度など）の要件に該当しなかったり、手続きが複雑で自力での申請が難しかったりすることで、「支援から取り残されている」と感じてしまうケースが増加しています。

「引っ越さなければならぬのに動けない」「前に進みたいのに進めない」——そうした不安や戸惑いを抱えるのは、決してあなた一人ではありません。アクロスでは、公的支援の条件に当てはまらない方や手続きに悩む方に対しても、個別のご事情をしっかりと伺い、今できることや利用可能な資源を一緒に探す「隙間（すきま）のない寄り添い支援」を行っています。ひとりで悩みを抱え込まず、どんな小さなことでもまずはアクロスにご相談ください。



## スタッフのつぶやき小窓

地震発生からあわただしい日々が過ぎていきましたが、最近は少しずつ通常業務に戻り、昼休みに本を読む時間も取れるようになってきました。余計なことを考えずに済む読書タイムは、私にとって心がホッと落ち着く大切な時間です。趣味の筋トレや運動も徐々に再開していますが、体力の衰えを感じる今日このごろ。そんな中、センターのお姉さま方から回ってくるおすすめの本に毎回没頭するのが、密かな楽しみになっています。日常を取り戻すにはまだ時間がかかりそうですが、皆様もどうか息抜きや休憩を第一に、心の健康を保ってお過ごしください。一步一步、復興に向けて一緒に頑張っていきましょう！



中高生の居場所づくり

## あくろスペース

開所日はこちらから確認できます▶

